

議案第5号

世田谷区登録有形文化財への登録
(勝光院の木造観音菩薩立像)

上記の議案を提出する。

令和8年1月27日

(提出者)
世田谷区教育委員会
教育長 知久 孝之

(提案説明)

区文化財保護条例第54条に基づき、勝光院の木造観音菩薩立像の世田谷区登録有形文化財への登録を教育委員会から区文化財保護審議会あてに諮問したところ、同条例第53条に基づき、登録に値する旨の答申があったため、本案を提出する。



答申第1号
令和8年1月13日

世田谷区教育委員会
教育長 知久 孝之 様

世田谷区文化財保護審議会
会長 早乙女 雅博



世田谷区登録有形文化財への登録について（答申）

世田谷区文化財保護条例第53条に基づき、令和7年9月8日付7世教生第981号で諮問のあった標記の件について、下記のとおり答申します。

記

1 答申内容

世田谷区登録有形文化財への登録（勝光院の木造観音菩薩立像）

2 添付資料

「世田谷区登録有形文化財への登録の説明」

世田谷区登録有形文化財への登録の説明

1	名称及び員数	勝光院の木造觀音菩薩立像 一軀			
2	種 別	世田谷区登録有形文化財(絵画・彫刻)			
3	所 在 地	東京都世田谷区桜一丁目26番35号			
4	所 有 者	宗教法人勝光院 代表役員 大場有里子			
5	概 要				
(1)年代	江戸時代				
(2)法量(cm)	像高	4.3			
(3)作者	不詳				
(4)内容	<p>素地一木造。彫眼。頭部群青彩、眉・瞳墨彩、口唇朱彩。左手首より先欠損、右臂にかかる天衣の下方欠損。現在本像は、黒漆塗内部金箔の厨子に納められ、厨子は布製の外袋に納められている。本像と台座を含めた総高は7.4センチメートルである。</p> <p>本像は広葉樹、台座は針葉樹とみられる樹種で制作されたと推察される。台座の彫法も纖細で立派な造作であるが、樹種の違いから台座は後補と考えられる。</p> <p>小像ながらも、三道が彫り出される等、極めて緻密で細部に意を注いだ造作からは、制作者の技術の高さがうかがえる。その生氣ある面相や衣文表現等、写実的で彫法も優れていることから、鎌倉時代的要素も看取される。きりっと上がった目尻は慶派による彫像を思わせる。</p> <p>本像は台座に、台座は厨子に接合されており、現状では本像正面の観察のみに限られる。</p>				
(5)勝光院沿革	<p>勝光院は世田谷区内でも有数の曹洞宗の古刹で、中世の世田谷領主吉良氏の菩提寺である。その前身は、建武2年(1335)に吉良氏が開基となって建立した龍鳳寺と伝えられる。天正元年(1573)に、世田谷城主の吉良氏朝が曹洞宗僧の天永琳達を中興開基として、父頼康の菩提を弔うために再興し、頼康の院号に因み勝光院と改称した。</p> <p>また吉良氏の有力家臣であった大場氏・関氏・宇田川氏・石井氏等は、勝光院を当時菩提寺としており、有力家臣にとって中心的な寺院であったことが分かる。</p> <p>徳川家康の関東入国以降は、30石の朱印地を与えられており、旧吉良氏領内で最も格式の高い寺院であったことがうかがえる。</p>				
(6)伝来	<p>(文中の「〈〉」は割注の意。)</p> <p>江戸時代後期、寛政9年(1797)に武州荏原郡上北沢村出身の穂積(鈴木)隆彦が、吉良義隆に進覧し、文化6年(1809)に増補分をまとめた『世田谷私記』において、勝光院の什物の項に「氏朝ノ守、一寸式三分、觀音ノ像アリ」と記されている。</p> <p>天保3年(1832)刊行の紀行文『松の柴折』には、「吉良氏朝の守本尊觀</p>				

		<p>音の像一軀(丈壹寸三分、この厨子に入る外箱黒塗にて桐の金紋付てあり、堅地にして漆色殊勝の古物也、)とあり、桐の金紋が施された黒漆塗りの「外箱」に、観音像が納められていると記されている。</p> <p>上記の文献史料は、いずれも吉良氏朝の守り本尊として伝える、一寸余りの観音像の存在を示し、本像がこれにあたると考えられる。</p>
6	登録理由	<p>当該仏像は、勝光院を再興したとされる世田谷城主の吉良氏朝の守り本尊として伝来しており、世田谷地域の歴史、また勝光院の沿革を考える上で貴重な像であることから、世田谷区登録有形文化財として登録するのが相応しい。</p>
7	登録基準	<p>「世田谷区文化財登録・指定基準」</p> <p>第1 世田谷区登録文化財</p> <p>1 世田谷区登録有形文化財</p> <p>(2) 絵画・彫刻</p> <p>イ 絵画史上、彫刻史上又はこの地方の文化史上貴重なもの</p>
8	出典・参考文献	<p>「世田谷私記(北川本)(穂積隆彦撰)」(上馬引沢村鈴木家文書、世田谷区立郷土資料館所蔵)</p> <p>「松の柴折」(『勝光院文化財綜合調査報告』所収)</p> <p>世田谷区立郷土資料館編『世田谷地誌集』(世田谷区教育委員会、1985年)</p> <p>世田谷区立郷土資料館編『勝光院文化財綜合調査報告』(世田谷区教育委員会、1992年)</p> <p>鈴木泉「十六世紀における世田谷吉良氏の造寺造仏について」(大橋一章博士古稀記念会編『てら ゆき めぐれ 大橋一章博士古稀記念美術史論集』所収、中央公論美術出版、2013年)</p> <p>横浜市歴史博物館編『藤田の吉良氏—戦国まぼろしの藤田城と姫君—』(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2014年)</p>



勝光院の木造觀音菩薩立像 正面画像